

トルコ共和国アンカラ大学留学体験記

私は2014年9月から2015年7月までの10カ月間、トルコ共和国アンカラ大学に留学していました。トルコ人の友人をきっかけに、トルコに興味を持ちはじめ「なんだかよく分からなくておもしろそう。」という、ただ「行ってみたい。」という気持ちに押され、何も知らずトルコに飛び立ちました。

トルコではトルコ語が話されています。首都アンカラでは英語を使えるトルコ人はとても限られており、挨拶程度しかトルコ語を知らなかった私は、まず言語の壁にぶつかりました。手続き等も全てトルコ語。はじめのころは水一本買うのにも苦労しました。しかし、話好きで世話好きなトルコの人々のおかげと、トルコ語が文法的に日本語に似ている部分があることから、2カ月過ぎたころには生活に困らない程度になっていました。最初のうちは語学学校の教科書や子ども用の本を読み、しらみつぶしのように単語を調べては覚え、使うということを繰り返えしトルコ語漬けの日々でした。最終的には日常会話では困らない程度にトルコ語を上達させることができました。

生活が落ち着いた頃から、アンカラ大学附属の語学学校に通いはじめました。語学学校は平日の朝の9時から13時までであり、5～15人程度の国際色豊かなクラスでした。2カ月に1回、読み・聞き取り・作文・会話・スピーチのテストがありました。午後はアンカラ大学の留学生向けの英語での授業や、トルコ語能力があれば学部の授業、また日本語学科のクラブ活動に参加することもできます。

大学は3つのキャンパスに分かれていて、その中の1つのキャンパスの中にある寮に滞在していました。その寮には留学生は6人程度しかいませんでした。3人部屋で、キッチン、シャワールーム、ランドリー部屋などは共同でした。同じ階の人にお裾分けをもらったり、調味料の貸し借りをしたりなど、清潔で暖かく快適な寮でした。トルコでは野菜や果物がとても安くおいしいので自炊をすることで生活費はかなり抑えることができました。寮には門限があるのですが、許可をとれば外泊も可能でした。

治安についてですが、アンカラでは夜一人で歩かないようにする、など基本的なことに注意すれば危ないと感じたことはほとんどありませんでした。

トルコでの生活は私にとってとても新鮮でいろんなことを考えるきっかけを与えてくれました。人生について、価値観について、宗教観について、政治についてなど様々な話を朝まで友人と語りあったり、友人の実家にお邪魔して文化を体感したり、トルコの豊かな自然や歴史ある文化に圧巻されに旅行にでてみたり、と様々な貴重な経験をすることができました。今後の進路としてトルコを視野に入れて考えるほど、魅了させられ、私の人生にとってとても大きな岐路になったのではないかなと思っています。なぜこんなところに来てしまったんだろう、もう日本に帰りたい、と思ってしまうようなこともありますが、その経験も含めて本当に行ってよかったと思っています。トルコ、ぜひおすすめです。

